

社会福祉現場で求められる社会常識についての一考察

～社会福祉士養成課程の学生に対する「最低限の社会常識」指導から～

Consideration of common courtesy required in the welfare field: By the guidance of

“An essential common courtesy” for student under the certified social worker training course

西川 友理

NISHIKAWA Yuri

(大阪国際福祉専門学校)

(Osaka international welfare college)

Key words: 相談援助実習, 常識, マネジメントサイクル

1. 社会福祉士養成課程の学生(実習生)の現状

社会福祉士養成課程において、相談援助実習という科目がある。これは、政令で指定されている福祉施設・機関において、社会福祉士としての実践的な福祉の知識・技術の習得等のために行う実践学習である。この際、学生は養成校の教職員による巡回指導を受けると共に、実習先施設・機関職員の指導も受ける。

相談援助実習の研修会等において、「実習生の実習態度等が不適切だと、利用者を傷つけたり、日常の支援に支障が出たりと、施設の利用者全員への権利侵害にも繋がる」「養成校側での一般的な常識やマナー、自己管理等の指導が必要なのではないか」これらは、実習受け入れ施設・機関からも、教職員側からも、よく聞かれる意見である。これに対し、「高等教育機関で教育すべきことなのか」という意見もある。しかし、養成校に求められており、しなければ利用者の権利が守られないならば、教育すべきか否かの議論よりも、対症療法的だが実施すべきと考えた。

2. 「実習に出る私」チェック表の作成と試験的实施

実習受け入れ施設・機関に臨もうとする学生に対し、実習現場から求められている一般常識(ルール・マナー・モラル)、常識に則った生活習慣、心身の自己管理、これらを総じて「最低限の社会常識」と呼称する。

施設・機関職員、実習指導教員から意見を徴集、精査し、学生の「最低限の社会常識」習熟度を測れ、学生自ら確認(再確認)出来るツールとして、「『実習に出る私』チェック表」を作成した。

2010年8～9月に相談援助実習を行う学生17名に、5～7月・10月の各月1回、計4回チェックを実施。7・10月に自由記述のアンケートを実施。

実施においては、Plan-Do-Seeマネジメントサイクルを活用。これに教育的誘導(inducer)を組み入れた「iPDSサイクル」に沿って行い、これをスパイラル・アップさせ「最低限の社会常識」習熟を目指した。

3. チェック表についてのまとめと今後の課題

アンケート評価はおおむね好評であった。

当たり前のことが出来ていても褒められはしないが、今回の実習期間、実習受け入れ施設・機関から社会常識に関しての苦情は、ほぼ無かった。これにより、本来の実習指導に専念出来た。

学生が立てた目標・手法を必ず確認し、必要に応じ指導する事。学生自身の評価に対し、客観的な評価を与え、適切に再考させる事。教員は、この2点を行うことが望ましい。

考察 高等教育機関における社会常識の指導

近年、社会常識の習熟度が低い学生が多いことについて、様々な高等教育機関でも問題視され、対策が講じられている。この背景には、社会の変化に伴い家庭環境や義務教育の内容が著しく変容しているという事情がある。家族や地域、幼稚園から大学までの教育機関、各々が、各々の携わる時期に、“次世代の社会人を育てる”という確固たる認識を持ち、役割と責務を果たす事で、子ども達は社会常識を持った人(社会人)となる。

今回の試験的实施により、養成校における社会常識の指導は、対症療法的であるが実情に即した有効手段の一つであると確認できた。今後、より明確に社会福祉職を養成するための一助として研鑽したいと考える。

考察 社会福祉従事者の社会常識

社会福祉従事者は、各々の専門分野に偏った社会の中で生活の大半を過ごしているため、各々の「社会福祉の社会常識」に囚われやすい。「社会福祉の社会常識」は、一般の社会常識と大きく重なっているが、これに異を唱えたり、専門職団体として独自の考え方があったりと、重ならない部分もある。また、利用者支援のため、専門分野以外の人々との連携、地域ネットワークを作ることが多々ある。何より、社会福祉サービス利用者の多くは、社会福祉とは縁遠く生きてきた人々である。

個々に社会常識がある事を改めて認知し、それらに共通する常識を習得する事は、日々の社会福祉サービス提供に柔軟性をもたらし、利用者の満足度も上がり、関係者からの信頼も得やすくなるのではないだろうか。

参考文献

梶田 叡一 『自己を育てる 真の主体性の確立』金子書房 1996年

読売新聞『大学、学生に「常識」も指導』2010年3月3日

文部科学省 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』平成19年